



田島中学校区 将来の学校を考える会 ニュース

平成30年3月9日発行 第3号

こどもの将来、学校の将来、まちの未来



生野区では、学校規模の適正化をはかるだけでなく、新たな学校での教育環境の充実、子育て環境の充実、災害に強いまちづくりを通じて、まちの活性化をめざす計画として、「生野区西部地域学校再編整備計画」を推進しており、議論のたたき台となる「田島中学校区学校整備計画（素案）」をもとに保護者・地域住民のみなさんと具体的な意見交換を進めています。

田島中学校区 将来の学校を考える会（以下、「考える会」といいます）（第3回、平成30年2月27日（火））が開催されましたので、協議内容等をご報告いたします。

第3回「考える会」で意見交換されたテーマ

- (1) 新たな学校の児童・生徒数推移について
- (2) 新たな学校の校地について
- (3) 開校時期(開校までのスケジュール)について
- (4) その他



(1) 新たな学校の児童・生徒数推移について

事務局からのご説明内容

- ✓ 児童生徒数の将来推計には、次の2種類があります。
 - ① 施設整備(普通教室の配置)の必要性を予測するために、校区の未就学児がすべて市立小学校に進学すると仮定する(こどもの転出入がないと仮定する)もの。
 - ② 実態に即した児童生徒数を予測するために、校区の未就学児が過去の実績と同様に市立小学校に進学すると仮定する(過去の実績と同様に転出入があると仮定する)もの。
- ✓ 「田島中学校区学校整備計画（素案）」は、②の推計をもとにしています。

いただいた主なご意見・ご質問 (【★】いただいたご意見等 【➡】行政からの説明)

- ★ 田島小学校の児童数が減少傾向なのは確かだが、平成27年度に算出した推計値と、平成29年度時点での実際の児童数には誤差があった。過去の児童の流出入を加味していないのではないか。推計どおりに児童数が減少していくと考えるのは早計だ。
 - ➡ 推計値算出の際には、流出入の過去実績(過去10年分)を加味していますが、誤差は生じています。

(2-1) 新たな学校の校地について (新たな学校の設置場所)

事務局からのご説明内容

- ✓ 校地面積等、田島中学校との距離、新校区の最長の通学距離を比較検討したうえで、当初は、田島小学校地を活用する提案をしていました。
- ✓ しかし、地域の方から、田島中学校地を活用して新たに施設一体型の小中一貫校を作ってはどうかというご提案をいただきました。
- ✓ 地域からのご提案について、当初は、施設整備上困難と判断していましたが、小学校のプールを屋上に設置するなど工夫や再検討をし、当初の課題を解消しました。
- ✓ 本日の「考える会」では、義務教育9年間を通して小中一貫した教育を効果的に実施できる、田島中学校の校地を活用した施設一体型の小中一貫校を提案しています。

いただいた主なご意見・ご質問 (【★】いただいたご意見等 【➡】行政からの説明)

- ★ 第1回「考える会」では、校地について「田島小学校地」と「田島中学校地」の2案があると説明を受けていたが、今回は1案のみの提案となっている。案は1案になったのか。
 - ➡ 地域の皆様からいただいた田島中学校地を活用する案を、今回は提案させていただきました。ただ、案としては2案残っており、どちらかに決まった、というものではないとご理解ください。

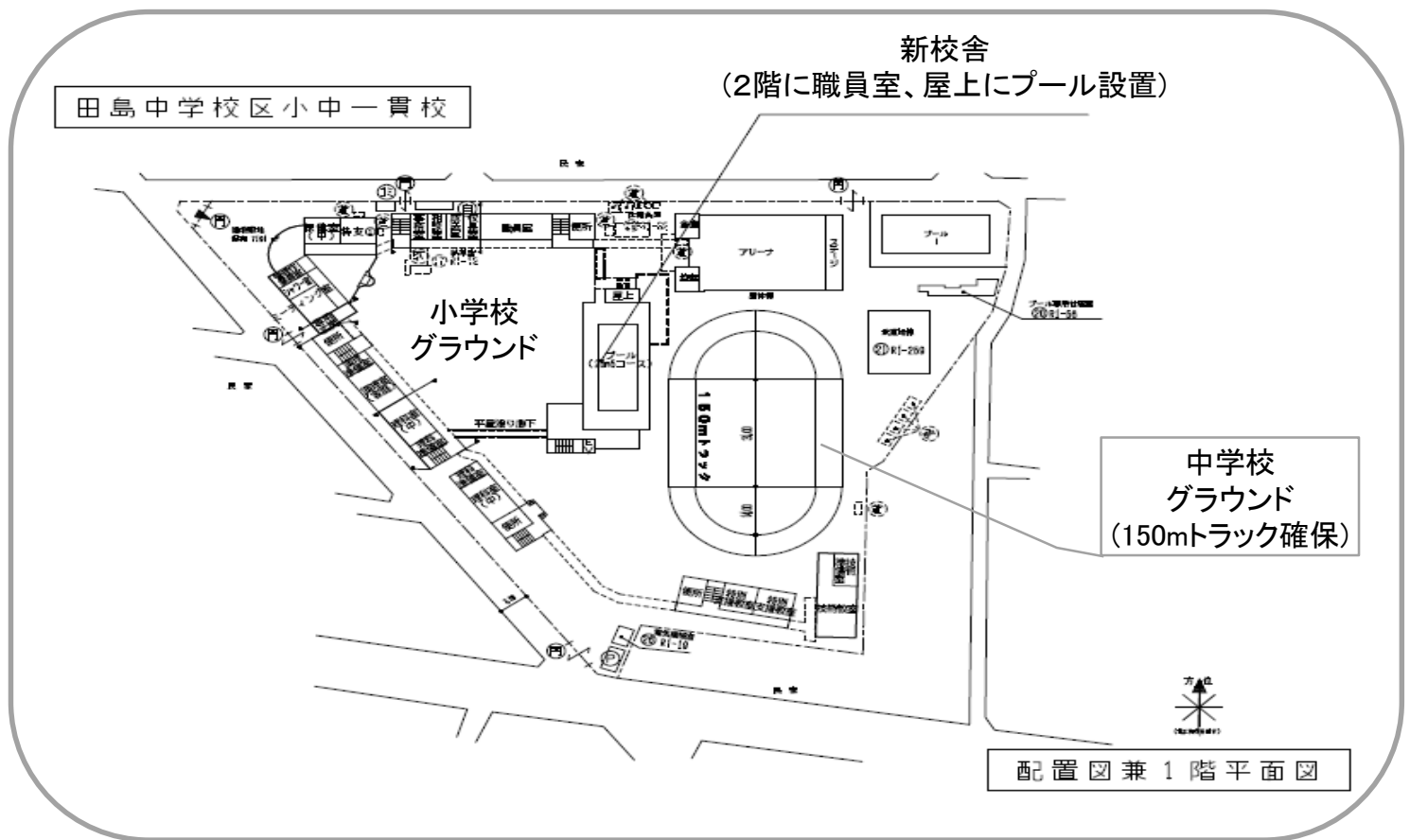
「考える会」(第3回)の最後に、次回のテーマである「通学路の安全対策」についての確認がありました(4ページ参照)。通学路の検討に際しては、子どもたちがどこへ通学するのが非常に重要です。このため、事務局より、田島中学校地を活用する案をベースに通学路の点検案を提出してよいか、委員に確認したところ、異議はありませんでした。



(2-2) 新たな学校の校地について (田島中学校区小中一貫校の施設)

事務局からのご説明内容

- ✓ 新たな学校の施設の事務局案は3ページ上の図のとおりです。
- ✓ 田島中学校地に小学校を設置しようとした場合、普通教室換算で20教室分不足しているため、現在のグラウンドの一部に新校舎を建てます。
- ✓ 職員室を新校舎の2階に置くことで、学校全体を見渡せるようにします。
- ✓ 部活動への影響を考慮し、田島小学校のグラウンドを第2運動場として活用します。



いただいた主なご意見・ご質問 (【★】いただいたご意見等 【➡】行政からの説明)

- ★ 田島中学校に小中一貫校を建てようとする、(事務局案ではグラウンドが)狭いというデメリットが現れる。(新たな学校の施設の建て方や建てる場所については)念入りに考えた方がよい。
- ➡ (大阪市では)耐用年数が残っている施設については、基本的に活用することとしており、(今ある中学校の施設)全体を刷新するというのは現実的ではありません。できる限り今の校舎を有効活用し、子どもたちが安全に学校生活をおくれるようにと考えたのが原案であることは、ご理解いただきたいと思います。

次回「考える会」にて、事務局は新たな学校の施設について、提案以外のものの検討を行い、結果を報告することになりました。

(3) 開校時期(開校までのスケジュール)について

事務局からのご説明内容

- ✓ 校舎建設設計や校舎建設工事にかかる時間を考慮すると、最短で平成33年4月に新たな学校を開校することができます。
- ✓ なお、「平成33年4月」は、校舎の工事等を考慮した最短の開校年度であり、開校年度を決定したものではありません。

(4-1) 小中一貫校 むくのき学園(東淀川区)の視察について

視察に参加した委員より、結果報告

- ★ 9年間の教育を見越して、6・3制(小学校6年間、中学校3年間)ではなく、4・3・2制(1～4年生：前期、5～7年生：中期、8～9年生：後期)を採用していた。4・3・2制を施設一体でできることにはメリットを感じた。
- ★ 小中学校の施設が一体となり、(小学校入学後すぐのような)小さな子の目が中学生に注がれるようになったことで、中学生が優しくなったとのことだった。
- ★ また、小中一貫校となることで、地域にも、中学校の様子がわかるようになり、地域にとって中学生が身近になったとも聞いた。
- ★ 一方で、敷地、特にグラウンドが狭いなど、施設のなもったいなさ、使いにくさを感じた。性急だったのかな、と感じる。

(4-2) 田島中学校地から田島小学校地への移動のための安全確保について (【★】いただいたご意見等)

- ★ (田島中学校地を活用した小中一貫校を新たに設置したうえで、田島小学校地を新たな学校の第2グラウンドとして活用するという案をふまえて)田島中学校から田島小学校へと朝の通学時間くらいの頃に歩いてみた。車の通りが多く、ガードレールもない。安全確保について、行政は考えているか。
- ★ 田島中学校のプールのある場所の門から、田島小学校のプールの方への道を整備したらいいと思う。

(4-3) 次回の意見交換のテーマについて

田島中学校区の新たな小学校の校地について、これまでの議論の経過を踏まえて、次回の「通学路の安全対策」を検討する際には、「現在の田島中学校地」を活用する提案をすることとしてよいか、確認が行われました。委員の方からの異議はありませんでした。



第4回「考える会」で意見交換される予定のテーマ

(1) 新たな学校の施設について (2) 通学路の安全対策について (3) その他

学校再編に関する情報は生野区ホームページでもご覧いただけます。

生野区西部地域学校再編の動き

検索



発行

田島中学校区
将来の学校を考える会 事務局
(生野区役所 地域まちづくり課)
電話：06-6715-9920